

えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団
えひめ水産イノベーション創出地域
TEL 089-960-1153 FAX 089-960-1105
E-mail : sakamoto@ehime-iinet.or.jp
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第30号 平成27年6月3日発行

6月です。梅雨入りしました。

松山地方気象台のホームページをみると四国地方の梅雨入り、梅雨明けは下表のとおりで、今年、今日、梅雨入りしたと発表がありました。

年	梅雨入り	梅雨明け
平成22年	6月13日頃	7月17日頃
平成23年	5月21日頃	7月8日頃
平成24年	6月2日頃	7月17日頃
平成25年	5月27日頃	7月8日頃
平成26年	6月2日頃	7月20日頃
平年	6月5日頃	7月18日頃
平年は、平成22年までの過去30年間の平均		

「カツオ」「鱒」「いさき」「べら」「虎魚(おこぜ)」「鯛(こち)」「黒鯛」の7魚種は6月の季語だそうです。そのうち「いさき・べら・鯛・黒鯛」の4種は、雌雄に関しておもしろい生態がありました。

「イサキ」は3歳位までは雌1に対し雄1.2で雄の割合が高く、それ以上では雌1に対して雄0.5となり、男性天国状態になるとか。「べら」つまり「キュウセン」は小さい時には全て雌で大きくなると雄になる「雌性成熟」の魚。逆に「マゴチ」は35cm程度までは雄で、40cmを超えると雌に性転換する「雄性成熟」の魚。「クロダイ」も性転換する魚で、15cmまでは雄、15-25cmは両性、それ以上になると雌になるとか。

6月の魚はややこしい ♂⇒♀ ♀⇒♂?



イサキ



キュウセン雄(青ペラ)



キュウセン雌(赤ペラ)



マゴチ

研究事業が採択されました

5月15日に農林水産省農林水産技術会議から愛媛大学南予水産研究センターが取り組んでいる「ICTを利用した養殖魚の感染症の予防

システムの構築」に関する研究を今年度からの3ヶ年事業として採択したと発表がありました。

これは農林水産技術会議が公募していた競争的資金である「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」の「発展融合ステージ」の「重要施策対応型」に応募していたもので、この「重要施策対応型」は、「地域イノベーション戦略推進地域」に指定された地域において「地域イノベーション戦略」を実現するために必要な研究開発を対象としたもので、今回3件採択された課題うちの1つです。なお、「発展融合ステージ」全体では採択された18課題のうち水産関係の研究課題は4件でした。

採択された課題名は「ICTを利用した養殖魚の感染性疾病予防システム構築のための基礎研究」で、愛媛大学南予水産研究センターが中心となり、同大学沿岸環境科学研究センター、独立行政法人水産総合研究センター、愛媛県農林水産研究所水産研究センター、愛南町、愛南漁業協同組合の6者で共同研究するものです。研究期間は今年度から3ヶ年で、初年度の研究費は総額で1,780万円となっております。

研究の拠点となる愛媛大学南予水産研究センター西浦ステーション



人材育成公開セミナーの開催予定

愛媛大学では、平成25年度から水産業の6次産業化を担う人材育成するため「水産イノベーションスキル修得講座」を開講しております。

今年度は、この講座の新たな取り組みとして宇和海地域の漁業者や水産関係者を対象に、水産物の加工、品質保持、流通等の出口戦略に関する意識の醸成を図るため、年3回の公開セミナーの開催を計画しております。

第1回目のセミナーを8月に開催する予定で、現在、愛媛県漁連に御協力をいただき、宇和島支部の隣接地に整備した研修センターで水産物の品質保持に関する講演を行うことで準備を進めております。来月号で詳細をお知らせしますので、多くの皆様の御参加をお願いします。



今年3月に完成した愛媛県漁連研修センター